



# 郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校

2023年8月31日

9月号

校長 安倍 武雄

## 学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

40日余りの夏休みが終わりました。やはり、学校という場所は子どもたちがいてこそだということに改めて実感します。ひっそりと息をひそめていた校舎さえも、何か息を吹き返したようです。今日から、前期後半が始まります。前期のまとめに向けて今一度、朝決まった時間に起きる、朝ご飯をしっかりと食べる、次の日の準備をきちんとする、早めに床に入るなどまずは生活リズムを整えることを大切にしていきたいですね。

さて、この夏休みはスポーツイベントが目白押しでした。様々なドラマがある中で心に響く言葉がたくさんありました。いくつかご紹介したいと思います。

ブタパストで行われた陸上世界選手権でのこと。女子マラソンでは、エチオピア勢が4人のチームで終盤まで先頭集団を引っ張っていく展開でした。結果は、シャンクル選手が金、ゲブレスラシエ選手が銀、5位にもイエフアラウ選手が続き、トリプル入賞となりました。金メダルのシャンクル選手は「力を合わせれば、より良い結果が得られるとわかっていた。先頭グループを減らし、その後4名で突き放す。それが私たちの計画でした。勝てて言葉が見つからないくらいうれしいです。3つのメダルすべてを獲得したかった。最終的には計画通りにはいきませんでしたが、金と銀を獲得したことに満足しています」とインタビューに答えました。

24時間テレビでは、芸人のヒロミが102.3Kmのマラソンにチャレンジしました。八王子付近の沿道では、年が近い5、60代から熱い声援を受けたのだそうです。「50、60代、なめんなよ！なんて言いながら走ってましたけど、応援されないと走れないんだなって分かりました。素晴らしいです。」とインタビューに答えています。

高校野球では仙台育英2—8慶応で、神奈川の慶応が優勝しました。負けた仙台育英の須江監督は「選手たちも最高のプレーをしてくれた。点差は開いたけれど、今まで以上の最高のベストゲームだった。2年間で頂点、そしてあと1つの悔しさ共に味わうことができた。人生は敗者復活です。この経験を次に生かします。2年続けてこの決勝の舞台に連れてきてくれた3年生に対して感謝を伝えたい」とインタビューに答えました。

勝ち負けが全てと思える世界、努力と根性ばかりが大切にされる世界と思われがちですが、実はこうしたところに本当のスポーツの魅力があるのかもしれない。思えば、「力を合わせること」「結果だけにとらわれないこと」「応援が力に変わること」「結果だけでなく過程が大事であること」「勝負に終わりはないこと」「共に戦えることに感謝すること」…どれも、そしてだれもが、小さいころから言われ続けていることのような…。

夏休み明けの子どもたちは、不安を抱え込んでしまうことがあります。ご心配なことがありましたら、遠慮なく担任までご相談ください。一緒に考えてまいりましょう。